

被災地方言会話集

— 宮城県岩沼市 —

〈場面設定会話〉

場面設定会話の概要

収録地点	宮城県岩沼市		
収録日時	2012（平成 24）年 6 月 30 日		
収録場所	宮城県岩沼市里の杜 里の杜西住宅（話者 A・B 宅）		
話題	【場面設定会話】 全 13 場面		
話者			
A	男	1935（昭和 10）年	（収録時 77 歳） [B の夫]
B	女	1937（昭和 12）年	（収録時 75 歳） [A の妻]
話者出身地			
A	岩沼市寺島（テラシマ）		
B	岩沼市早岐（ハヤマタ）		

【場面設定会話】

話し手

A 男 1935 (昭和10)年 (収録時77歳)
B 女 1937 (昭和12)年 (収録時75歳)

〈 あいさつ 〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : オマエ ドゴサ イグノヤ。
あなた どこに 行くのよ？

002B : オレゲー。オレ {笑} オレ カエモノサ エグンダ。
私か。 私 {笑} 私 買い物に 行くんだ。

003A : アー アド イッテコーイ。
ああ それじゃ 行ってこーい。

(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : アンダ シンマダナワー。
あなた 昼間だよ。

002B : アー シンマン ナッタガワ。アー ンデ イガナクテネーナー。
あー 昼間に なったの。 あー それでは [食事に]行かなければならないな。

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : ナンダヨ、コンナ オッソグ ドゴサ イグンダ。
何だよ、 こんな 遅く どこへ 行くんだ？

002B : ア オレガ。オレア ホレ トゴアサ イッテチタンダー。
あ 私か。 私は ほら 床屋に 行ってきたんだ。

〈 ねぎらい 〉

(4) Aが仕事に精を出すBと会い、Bの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

001A : アー イッショケンメーダナー。

あー 一生懸命だな。

002B : ンダー。

そうだ。

003A : スコス ヤスメ マズ。ホンダ ガズガズ スネデヤー。

少し 休め まあ。そんな がつがつ [仕事]しないだよ。

004B : ンダガー。 ンデ ココデ スコス ヤスムガナ。

そうか。 それでは ここで 少し 休むかな。

〈 勧め 〉

(5) Aが、仕事をしているBに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

001A : アンター ダレモ イネガラヤー。 オジャ ノンデゲー。

あなた 誰も いないからよ。 お茶 [を] 飲んで行け。

002B : ンダナー。 ンダラバ ゴッツォーン ナッカ。

そうだな。 それならば ご馳走に なるか。

〈 訪問時の声掛け 〉

(6) 昼間、AがB宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

001A : コンヌズワー。 イダノー。

こんにちは。 いるの？

002B : イダガラ ハイレー。

いるから 入れ。

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) AがBにスコップを借りるときのやりとり。(Bが貸す場合)

001A : アー スコップ ネーガラ カシエー。

あー スコップ ないから 貸して。

002B : アー モツテガセー。 ツカワセー。

あー 持って行きなさい。使いなさい。

〈 お礼 〉

(8) Aが借りたスコップをBに返しに行ったときのやりとり。

001A : ア ドーモ アリガトネー。

あ どうも ありがとうね。

002B : ア エーヨー。

あ いいよ。

003A : イヤイヤ オカゲサンデ タスカッタヤー。

いやいや おかげさまで 助かったよ。

004B : ア ホンダゲー。ホンデ エガッタネー。

あ そうかい。それでは よかったね。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) AがBに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Bが構わないという場合。

001A : イヤーヤ コワレデスヤッタнда。モースワケネーナァー。 ナンジョシテ

いやー 壊してしまったんだ。申し訳ないな。 どうして

002B : アー ジー [1] ジー。オラエデ マタ カウガラ。

あー いい いい。私の家で また 買うから。

003A : ヤー ベンショ サナクテネーガヤ。

いやー 弁償 しなくてはならないかい。

岩沼市 場面設定会話

004B : アー イーガラ イーガラ。オラエデ カウカラ。マダ ツカワセー。
あー いいから いいから。私の家で 買うから。また 使いなさい。

(9-2) Bが破損に対して不満を述べる場合。

001A : アー コイズ イダマスカッタナヤァー。 フッチャガッテ。
あー これ 大切だったんだよなー。 壊れてしまって。

ヤーヤ ハー イダマスガター。アイズ ダイズニスタンダー、オラエナヤー。
いやー はー 惜しいなー。 あれ 大事にしてたんだ、私の家のはよ。

002B : イヤー ンダッテ フッチャゲテスマッタナオン。スカダネベヨー。
いやー そう言ったって 壊れてしまったんだもの。 仕方がないでしょう。

ベンショースッカー。
弁償するか？

003A : アー イーガラワ。 スカダネ。 ダイズナモンダゲントモー
あー いいからよ。 仕方がない。 大事なもののだけれど

イーワ オラエデ カウガラワ。
いいよ 私の家で 買うからよ。

〈 誘いと断り 〉

(10) AがBを朝市に誘う際のやりとり。

001A : アー ドコサガダカニ アサイズ アッカラ イッベヤ。
あー どこにかだかに 朝市 あるから 行こうよ。

イッショニ ノシェデンカラヤー。
一緒に [車に]乗せていくからよ。

002B : ア ダメダー。オレ トモダジト オジャノミサ イク。ンダッター。
あ だめだー。私 友達と お茶飲みに 行くんだった。

岩沼市 場面設定会話

イカ° ンネカラワ。オトツツァン ヒトリデ イッテコセー。
行けないからよ。 お父さん 一人で 行って来なさい。

003A : イヤーヤ オメ イカ° ネット ウマグネンダヨ オレ。
いやいや お前 行かないと うまくないんだよ おれ。

004B : イク° ヤクソクシッタカラ ダメダー。
[お茶のみに]行く 約束しているから 駄目だ。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩している人に、体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11-1) 体調を崩しているBに、Aが体の調子を尋ねる際のやりとり。Bの調子がいい場合。

001A : アー オメー カラダー ワルグシタツッケ ダイジョーブナノガ。
ああ あなた 体 悪くしたっていうけど 大丈夫なのか？

002B : ウン イマントコ ダイジョーブダナー。
うん 今のところ 大丈夫だな。

003A : イシャノ ハナス チガネデ ワガンネンダゾ。
医者の話 聞かないと だめだぞ。

004B : ア イシャモ イーツタカラ ダイジョーブダ。
あ 医者も いいって言ったから 大丈夫だ。

(11-2) 体調を崩しているAに、Bが体の調子を尋ねる際のやりとり。Aの調子が悪い場合。

001B : トツツァン グアイ ワルイゲー。
父さん 具合 悪いのか？

002A : イヤー スコスグラ ワリダッテ ガマンスナクテネナー。
いやー 少しくらい 悪くても 我慢しなくてはならないな。

オレモ トシダカラナー。
おれも 年だからな。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというBに、Aが「(私が)片付けてやろう」というときのやりとり。

001A : ドレ オレ ホンダゴド オレ スッカラ ヤスンデロー。
どれ ほれ そんなこと おれ[が] するから 休んでいる。

002B : インデ シテケセー。 ナオッタラ スッカラ。
それでは してください。 [病気が]治ったら [私が]するから。

〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真を相手が間違っ捨てようとしているときに、それを制止してどのようにいうか。

(13-1) B (女性) が制止する場合。

001B : ア ホイズ ナン、マッテセー。 イマ ミッカラ ナガミ。
あ それ 何、 [捨てるのを]待つてよ。今 見るから 中身。

(13-2) A (男性) が制止する場合。

001A : ア ホイズ マッテロ。 イダマスィンダカラ ホレ。ナカニ ナンダカ
あ そいつ 待つていろ。大事なんだから ほら。中に なんか
ヘッテヤツパー。 ヨーグミネデ、ワガンネベ オメ。
[大事そうな物]入ってるぞ。よく見ないで、だめだろ あなた。

(別回答：捨ててしまった時の不満)

001B : アヤー ホイズ イダマスィーガッタノ。ナンーダヨ マゴノ カダミノ
あやー それ 大事だったの。 何だよ 孫の 形見の
シャスン、ナゲダノガー。
写真、 捨てたのか。

宮城県岩沼市方言会話集（場面設定会話）注記

〔1〕 ジー

「良い」のこと。「良い」は、「イー」ないし「エー」と発音される。さらに、県南では、ヤ行の音が摩擦化しジャ行になる。したがって、「良い」の「イー」は「ジー」、「良い」の「エー」は「ジェー」と発音される可能性がある。この会話では、「イー」が、摩擦化し「ジー」になっている。

宮城県岩沼市方言会話集（場面設定会話）担当者

収録担当者 中西 太郎（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
 椎名 渉子（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）
 蕭 舒文（東北大学大学院文学研究科博士前期課程1年）
 刈間 勇斗（東北大学文学部3年）
 梁 敏鎬（人文科学総合研究所 研究教授）

文字化担当者 中西 太郎（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
 蕭 舒文（東北大学大学院文学研究科博士前期課程1年）